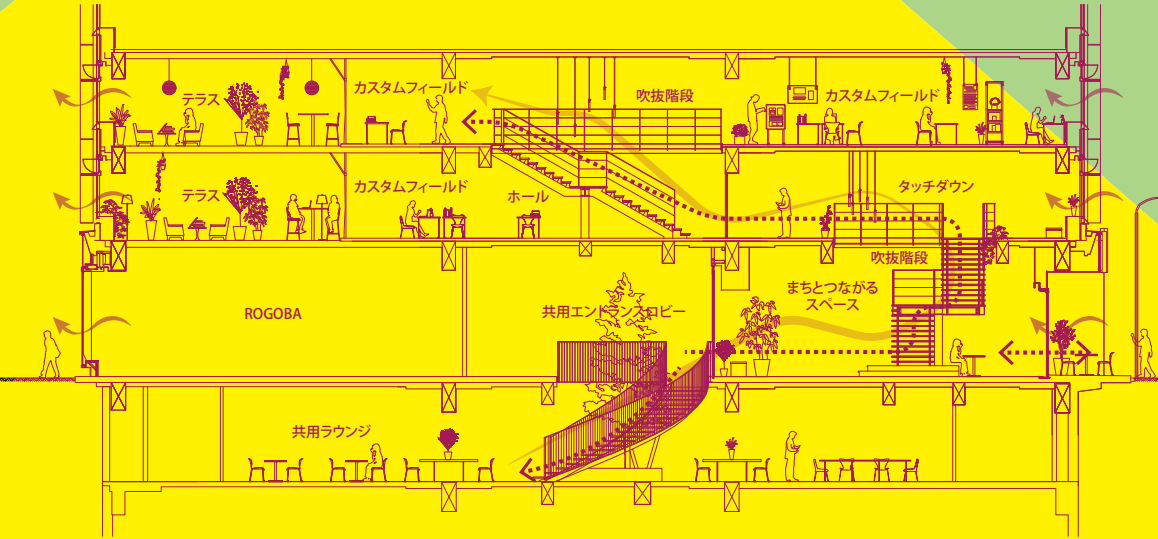


POINT 04

つながる場

美士代クリエイティブ特区は、創造性を刺激する実験場でもあります。光と空気が吹き抜けを通して流れるのと同じように、人々や情報も自由に行き交うことができるようにデザインしました。偶然の出会い、そして交流が生み出す自由な創造性のあり方は、まちとつながる1階に始まり、吹き抜け階段を抜けて、フロアを回遊し、2階、3階の執務エリアまでつながります。人々の自由な流れを促し、創造的な衝突を促進します。創造性の源泉となったその空間が、未来を支えるアイデアや社会的価値を生み出す拠点となることを目指しています。



吹き抜けを通して事務所内が光と風でつながる。



つながる場

オフィス共用ラウンジにまで光を取り込む、大きくひらけた吹き抜け、そして緩やかな階段と各フロアの回遊動線が、オフィス全体を一筆書きのようにつなげています。以前のオフィスでは330㎡/階でしたが、今回1300㎡/階となったことで、ひと続きのワンオフィスとなりました。オフィス全体のリノベーションを一貫して手がけることにより、スムーズに人と空気が流れる、光溢れるデザインを実現しました。

つくり続ける場

主な執務空間であるカスタムフィールドでは、部署やプロジェクトチームごとに簡単に再構築できるように、可動式の家具を配置しています。チームやプロジェクトの活気を視覚化し、コミュニケーションを促進することを意図しています。



コミュニケーションが自然発生する場

席の自由度を高めることで、いろいろな人との交流が盛んになりました。コミュニケーションがあらこちから生まれています。



家具をDIYでつくる。

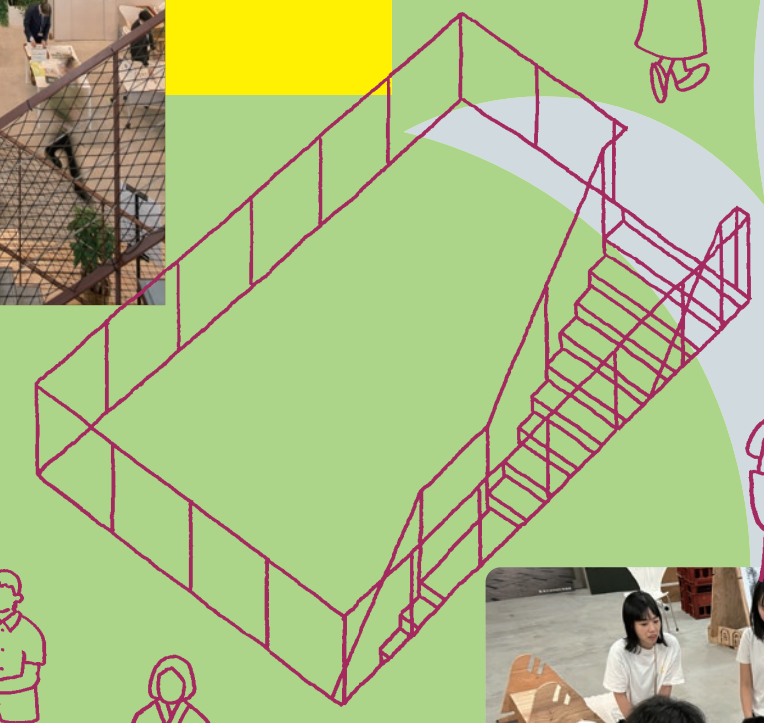
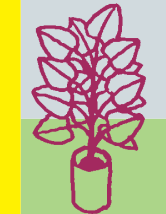
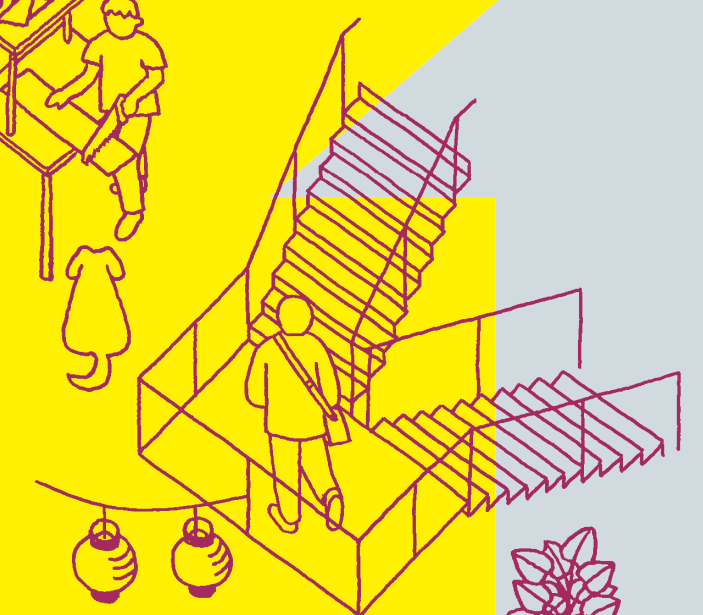
人は常に変化し、成長していきます。空間も同じです。変化するためには、新しいきっかけを提供し、その変化を受け入れる余白が必要です。美士代クリエイティブ特区は、社員や地域コミュニティの変化するニーズに応じて自由にカスタマイズすることのできる「余地・余白」を残しました。人々

が自主的に考え、能動的にアクションを行うことで、オフィスは変化し、成長していきます。環境の変化は、そこで働く人々のマインドの変化も促すに違いありません。柔軟に進化していくオフィスは、そこに集う人々と未来に向けて共に育ち、発展していく場所となります。

- 受賞・認証
- ・WELL 認証(WELLv2 ゴールドランク) 取得
 - ・ZEB Oriented 評価(エネルギー量45%削減) 取得
 - ・屋内緑化コンクール2024 屋内緑化推進協議会会長賞
 - ・ARCHITECTURAL DESIGN AWARD 2024 最優秀賞

美士代クリエイティブ特区

Mitoshiro Creative District



2024年、安井建築設計事務所は千代田区の平河町から神田の美士代町に位置する築60年のオフィスビルへと東京事務所を移転しました。私たちが理想とするのは、自ら成長し、自らつながりをつくり、自ら企画できる、主体性を持った個人の集団です。そのためこの空間を「美士代クリエイティブ特区」と名付け、これまでのオフィスと一線を画した個の個性、クリエイティビティを存分に発揮できるような空間としてデザインしました。また、建築やまちに関わる集団として、人々とまちを活性化するためのプラットフォームとしても活用していく予定です。人々の自主性や自由度を尊重し、自律的な文化を築いていきます。この空間が持つコンセプトは、安井建築設計事務所の理念でもあります。

美士代
クリエイティブ特区
紹介動画



POINT

01

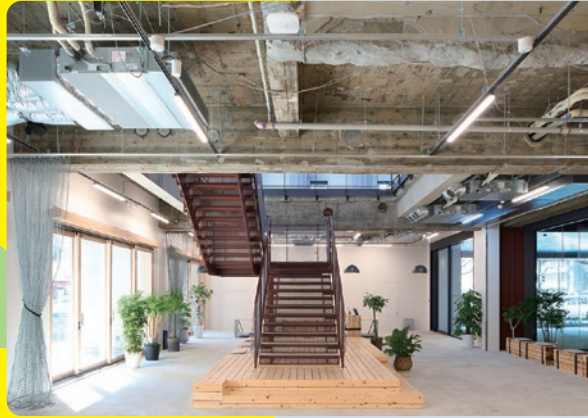
場所の持つ 記憶を生かす

新しい事務所の移転先となったのは神田の美土代町にある、60年の歴史を持つ建築です。新しいものが生み出され続ける都市の只中で、私たちはその建築が持つ原点に立ち返り、その場所で紡がれてきた

「歴史」に注目しました。建築がすでに持っている価値を発掘することにより、その場所で育んできた「記憶」を伝える架け橋となることができます。オリジナル価値を表出させるリノベーションにより、新旧の要素が共存する独特の空間を創出しました。

建築のもつ歴史を表出させる

建築が持つ60年の歴史をそのまま表に出してしまうリノベーションプランを実施しました。塗装を施さない部分を残すなど、随所に建築の持つ記憶を感じることのできる要素が意図的に残されています。



築60年の既存躯体をあえて露出させた作りこまないデザイン。



1960年新築時。



今回の改修時、1階をよりまちにオープンなデザインとした。

POINT

02

まちに ひらく



神田は古くから続く、豊かな歴史と文化を持つまちです。そのまちが持つ価値に、設計事務所はどのように寄与することができるでしょうか。美土代クリエイティブ特区は、地域の人々が行き交い、交流する、そんなひらかれた場所となるよう、さまざまな取り組みを行うこと

にしました。オフィスをはみ出した空間に変え、神田のまちの豊かな文化と相互に刺激する場にする。それは社員の外向きなマインドや創造性を促すことにもつながっていくはずです。美土代クリエイティブ特区は、神田のまちと共に、創造性を高め合う関係を築いていきます。

1階を外部に開放する

まちにひらくために、東側の壁面を全面開放できるように改修。軒下や前面道路にもアクティビティがあふれる設計となっています。またさまざまなイベントやアクティビティに対応できるように、キッチンや屋外水栓、授乳室なども完備しています。

POINT

03

環境への気配り

地球温暖化や環境負荷といった課題が喫緊となるなか、設計事務所にもどのように環境負荷を低減するかが問われています。美土代クリエイティブ特区では、既存の建物を再利用することで、温室効果ガスの排出量を削減しました。さらに、高効率空調設備などの省エネルギー技術を導入することで、建

物運用時のエネルギー消費量を45%削減（BEI値0.55）。これにより、ZEB Oriented評価（エネルギー量45%削減）を取得しました。築60年を超える約20,000㎡の建物が、ZEB-Oriented（BELSで5つ星）を達成するのは極めて先進的な事例です。

環境負荷の低減

既存の建築を再利用することで建設資材の生産、運搬、施工などの過程で排出されるCO₂排出量や、エネルギー量を削減しました。また空調を使わずに外からの風を取り込んだり、業務の工程をペーパーレスにするなど環境負荷の低い働き方にも取り組んでいます。

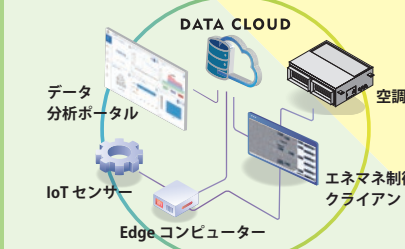


新築オフィスと比べて
温室効果ガス
約96%減
〔建設時排出量比〕



体験型屋上テラスにある畑でミニトマトの苗を植えるワークショップを開催

デジタル技術による 環境コントロール



社内の専門チームが、センサーやエッジコンピューティング技術を活用して、遠隔からエネルギー管理を行うシステムを構築しました。またスマートフォンを利用した位置情報、サーカディアンリズム照明の導入、BIMとも連動する温湿度検知器などのデジタル技術で環境づくりを補助しています。快適性をコントロールする統合的システム構築により、職場の快適性が向上しています。



WELL GOLD

働くことは、人生を豊かにする営みです。美土代クリエイティブ特区では、そのために自然の要素を取り入れたリラックス効果と集中力を高める空間を設計しました。最新のデジタル技術を活用することで季節や気候に左右されない快適な環境を提供しながら、ひとつながりのオフィスデザインにより社員の歩行量を1日25%（前事務所比）増加させ、

ヘルスケア向上にも貢献しています。「快適さ」「心地よさ」「集中力」「コミュニケーション」を向上させ、「自主的イベント/活動」の充実化も図っています。これらの取り組みにより、ワークプレイスの快適性を評価するWELL Building Standard(WELL認証)WELLv2 ゴールドランクを取得するなど、世界的認証機関からも高い評価を得ました。



空気と人が行き交うテラス

「テラス」と名付けられた空間には、空間を横断する特徴的な透明のビニールカーテンが設置されています。外からの空気をブロックするのではなく、流れるままにすることで、空調を使わずに快適さを維持した働き方を実現しました。建物内にありながらも半屋外のような空間では、取り巻く環境の気配や、人々の賑わいを感じながら働くことが出来ます。



バイオフィリックデザイン

バイオフィリックデザインに関連する企画から植物のメンテナンスまで、専門のバイオチームが一手に担当しています。風や光、緑といった自然を感じる場を設けることで、空間に変化を生み出し、また周囲の喧騒から離れることで、リラックスしながら集中して仕事をする事が出来ます。閉じられた空間においても、開放感を感じられる設計となっています。